

日本を誇りにしている国、自慢している国にしたい長野県中川村議会の月例会で曾我村長語った願い

* 一般質問通告

小中学校の入学式や、卒業式の席で、村長は壇上に上る際、降りる際に国旗に礼をさねていないように思います。このようにして村長のおきえをお聞きしたい。

* 答弁原稿

たいへんありがたい質問を頂戴しました。ご質問の件については、村民の皆さん方の中にもいろいろな想像して様々に解釈しておられる方がおられるかもしれません。説明するよい機会を与えていただきました。感謝申し上げます。

私は、日本を誇りにできる国、自慢できる国にしたいと熱望しています。日本人だけではなく、世界中の人々から尊敬され、愛される国になつて欲しい。

それはどのような国かといつと国民を大切に、日本と外国の自然や文化を大切に、外国の人々に対しても、貧困や搾取や抑圧や戦争や災害や病気をなくして生きていける国

うにできる限りの努力をする国です。海外の紛争戦争に関しても、積極的に仲立ちをして、平和の維持構築のために働く。災害への支援にも取り組む。

たとえば言えば、日の丸が、赤十字や赤新月とならぶ、赤日輪ごもいうようなイメージになればと思います。

世界中の人々から敬愛され信頼される国となること、安全保障にも繋がります。

これは、私一人の個人的見解ではなく、既に55年以上も前から、日本国憲法の前文に明確に謳われています。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようとして努め、この国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和

のついでに生存する権利を有するものとして
を確認する。

そして憲法前文は、次のような言
葉で締めくくられています。

日本国民は、国家の名譽にかけ、全力
をあげてこの崇高な理想と目的を達
成すべしと誓ふ。

しかし、現状はまったく程遠いと言
わざるを得ません。日本国は、名譽に
かけて達成すると誓った理想と目的
を、本気で目指したことが、一度も
あったのでしょうか。

東京電力福島第一原発による災害
では、国土も、世界に繋がる海も汚染
させました。たぐさたの子どもも達が、
かつての基準なら考えられない高汚
染地域に放置されています。そして
また、安全基準も確立しないまま、目
先の経済を優先して、大飯原発の再
稼動を急いでいます。放射性廃棄物
をモンゴルに捨てようとしていたり、原発
の海外輸出まで模索しています。

明治になって日本に組み入れられ
た琉球は、抑止力のためという本土
の勝手な理屈で多くの米軍基地を押し
付けられ、なまじりまた美しい海岸
をしびして新たな米軍基地を造るのつ
いでに動きがあらわれ、一ノ宮戦争

に協力し、劣化ウラン弾の子どもたち
が苦しめられることにも、日本は
加担しました。兵器輸出の緩和さえ
模索しています。

他にも、福祉を削り落として、貧困
を自己責任に転嫁するなど、言い出
せばきりがありません。しかもかくう
の日本は、誇りにできる状態から程
遠いと言わざるを得ません。

しかしながら、誇りにできる状態に
ないから、国旗に「礼をしない」とい
うことではありません。完璧な理想
国歌家はあり得ないでしょう。しか
し、理想を目指すことはできる。しか
し、そのぶんりえ日本にはない。そ
れが問題です。

もって問題なのは、名譽にかけて誓
った理想を足蹴にして気にもしない
今の日本を、一部の人たちが、褒め称
え全面的に肯定させようとしている
点です。この人たちは、国旗や国歌に
対する一定の態度を声高に要求し、
人々をそれに従わせる空気を作り出
そうとしています。

声高に主張され、人々を従わせよう
とする空気に従うようになると、日本
の国の足を引っ張り、誇れる国から遠
ざける元凶だと感じられます。

人々を従わせようとする空気に抵
抗するようになると、日本やこの国は
どうあるべきか、ひとりひとり者が考
えを表明し、自由に議論しあえる空
気が生まれ、それによって日本は良い
方向に動き出すようになるのではな
りません。

人々に同じ空気を強制して現状の
ままの日本を肯定させようとする風
潮に対して、風穴を開け、誰もが考え
を自由に表明しあえるべき日本、
目指すべき日本を皆で模索しあうこ
とによって、誇りにできる日本、世界
から敬愛され信頼される日本が築か
れる。日本を誇りにできる国、世界か
ら敬愛される国にするために、頭「
なしに押しつけ型にはめようとする
風潮があるうちは、国旗への「礼は
なるべく控えよう」と考えております。

以上、初回答弁の原稿（
一問一答のやりとりの最後 要旨）
Q：村長は子供たちが国旗に礼をし
ないようになる方がいいと考えてい
るのか？

A：教育内容について行政から口を
挟むことは控えるべきだと考える。
なにをどう教えるかは、教育委員会
の管轄である。国旗に対してどう

う態度を取るべきか、取るべきで
ないとか、いじめまでも申し上げた
ことはない、今後とも申し上げる所
りはない。

＜新聞記者 信濃毎日新聞、長野日報＞
この取材でのやりとりの最後 要旨）
Q：子どもたちには、どうあつて欲
しいと思っているのか？

A：いろいろな人がいて、いろいろな
考え方があつたのだな、と感じても
いいのは嬉しい。その上で、自分はどう
考えるのか、じっくり検討して欲しい。
こういう態度を取らねばならないの
は、ただひとつの形しか提示しないのは
問題。型にはめようとするのはよく
ない。まあ、この場合は空気を読んで
う振る舞うのが大人だし…」という
ような対応を積み重ねた結果、曾て
場の空気に絡め取られ戦争に向けて
後戻りできない状況に陥り、後悔し
たのではなかったか。どういふもので
あれ、自分の感じ方、思いを気安く表
明できる「空気を創っていく」ことが
大事。それによって互いに議論が深
まり、理想の日本、あるべき日本、目
指すべき日本が模索され、その結果
が皆に共有されてくれば嬉しい。